

ひがしとみおか・みなみみま
東富岡・南三間遺跡

伊勢原市 No.160

- 調査期間** 2014年7月15日～2015年3月31日
所在地 伊勢原市東富岡
時代 近世、中世、奈良・平安、古墳、縄文
調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約1.7kmの富岡丘陵東斜面地



主な調査成果

2014年度に第2次調査を行った本遺跡は、今年出土品の整理作業を行っています。ここでは、14～16世紀を中心とした中世の人々の活動痕跡が発見されています。遺跡は谷の最奥にあたり、住まいの場というよりも、鉄滓が多量に出土することから、製鉄に関係した活動をしていたことがわかりました。

注目される出土品は、「文字が書かれた石製硯」と「猿形土製品」です。「石製硯」は地下式坑出土で、長さ9.6cmの四葉硯と呼ばれる硯です。裏面には河内入道などと出家した武士とおぼしき名前が書かれています。「猿形土製品」は土坑出土で、下半身を欠いていますが、高さ4.5cmです。顔には左右に沈線が描かれ、ひげを表したものと推定されます。



石製硯 裏面罫書き



猿形土製品